

春の陽光に映える新関西大学会館



二十一世紀を乗り切るためには、意欲と自制が必要である 情動にいかにかに知性を もたせるか



関西大学学長
石川 啓

春が巡り来て、長かった学生生活を終えた諸君が、関西大学を巣立つ今日は、大学で最も晴れやかな喜び溢れる一日である。この佳き日に当たり、まず卒業生諸君に心からの祝意を申し上げたい。

顧みれば、諸君が学業に勤しんだこの四年の間には、国の内外を問わず実に多くの出来事があった。国内においては政治が混乱し、経済は低迷し、就職活動は厳しく、また大地震も経験した。しかし他方において、諸君は、関西大学総体が持つ大きなパワーの中で、自らを育み得た喜びをかみしめていることであろう。全ての卒業生諸君が、いま「僕は、私は、関大で〇〇をしたのだ」と胸を張って言えるであろうことを願う。

さて、諸君がその第一歩を踏み出す現在の社会は、展望が開けない状態にある。超高齢化社会が到来することだけははっきりしているが、産業革命以来の転換期に入った世界において、わが国のシステムがついていけず、改革は進まず、福祉を支える財政が破綻しかねない現状を憂う声が多い。しかし、危機を口にするだけでは事態は改善されない。根拠のない楽観主義ほど始末におえないものはないが、いつまでも悲観主義に浸っているわけにはいかない。いまこそ、二十一世紀を背負って立つ諸君の奮起と奮闘に期待したい。諸君はこれから、それぞれの持ち場で努力し、挑戦していかなければ、失敗することもあるだろう。しかし失敗を恐れてはならない。失敗の原因が自分自身ではどうすることもできない改善不能な欠点にあると思えば、改善の希望も士気もなくしてしまうが、それが状況のせいだ、状況を変えるのは不可能ではないと思えば楽観も生まれ、そしてやる気も出るというものである。

いま、アメリカでも、わが国でも評判になっている本に、ダニエル・ゴールマンという人が書いた「EQ 知能指数」という本がある。社会で成功するためにはIQではなくて、EQであるという彼の主張は、多くの人々の共感を得ている。EQとは、自分の本当の気持ちを認識し、激情をコントロールし、失敗してもあきらめず、他人の気持ちを思いやるなどの、自制と熱意と忍耐と意欲などの能力をいう。そしてEQは学習により身につけることができる。現代社会における種々な病理現象の深刻さを見るにつけても、こころの問題を見直すことには現実性と緊急性がある。要は情動にいかにかに知性をもたせるかということであろう。

これからの職業生活、社会生活は随分厳しくなると思われるが、EQを啓発して、一昔前の先輩達が考えもしなかった新しい道を切り開いて戴きたい。諸君の社会での大いなる活躍を衷心より願うものである。

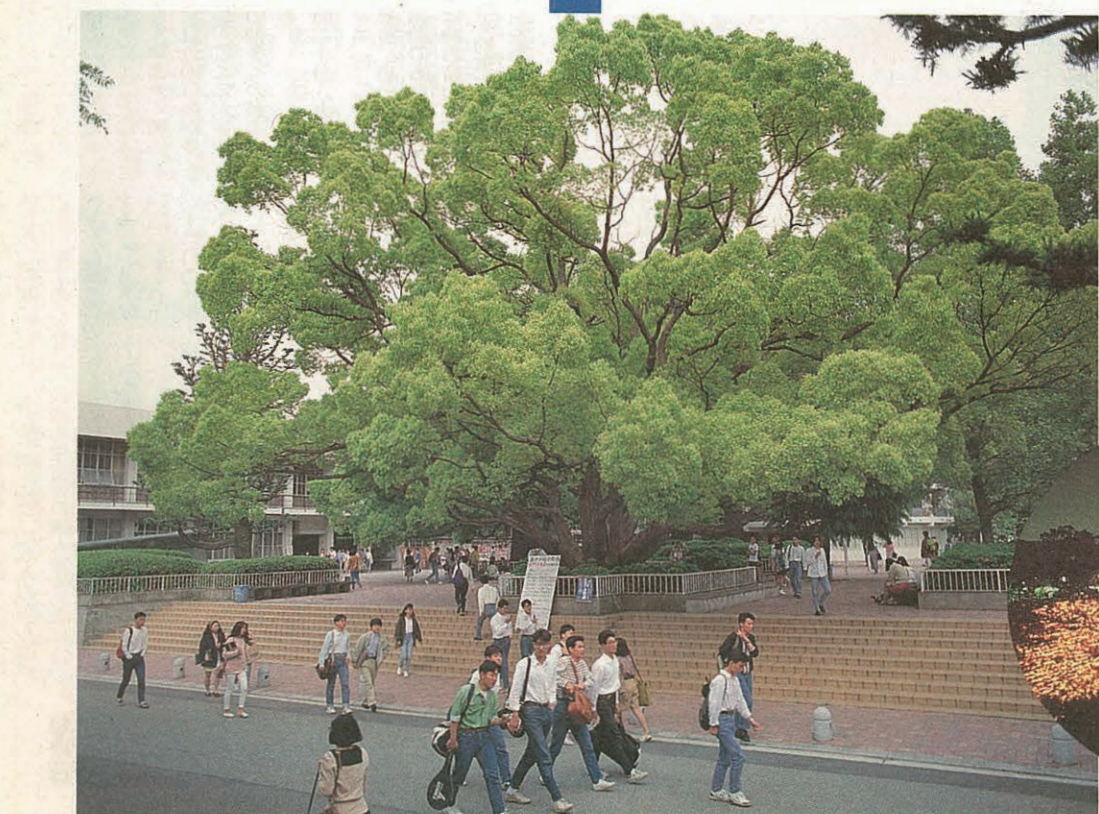
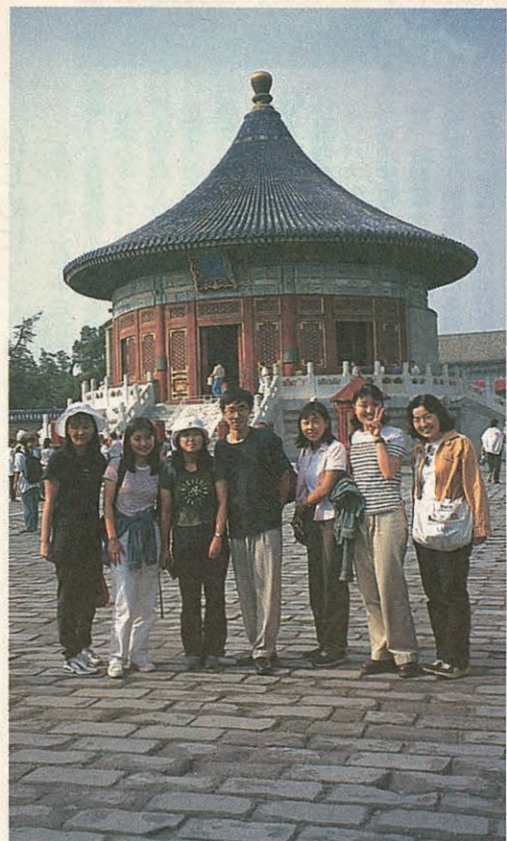
HEADLINE

- 2・3面 大学を去るに当たって
- 4・5面 卒業式を挙げる
- 6面 特集「思い出の関大ライフ」
- 8面 差別落書事件と
- 8面 大学の取り組み
- 8面 卒業される皆さんへ

千里眼

新年早々、ロシア船籍のタンカーが海難事故を起こし、日本海沿岸では漂着した重油により大きな被害を受けている。地元の人々に加えて多くのボランティアの方々が柄杓を持ち、手作業による重油除去の報道を見ていると、昭和四十九年暮れに倉敷市水島で発生したタンクからの重油流出事故を思い出す。当時も瀬戸内海の島々では、今と同じように地元の人々が柄杓により重油の除去をしていた。この二十年間で科学技術は進歩したのだろうか? 重油処理剤が開発されている。この処理剤は特殊な石鹼(界面活性剤)を用いて重油を微粒化させ、微生物による分解を待つという方法である。しかし海水を含んだ重油は粘性が高くなり、微粒化できないという。つまり、開発研究における条件と現実の条件との違いが大きく、実用的な処理剤の開発が遅れているのである。大学における研究も殆どの場合が理想化された条件下での成果であり、現実条件とのギャップによりすぐには役立たない。しかしながら困難な壁に直面した時こそ基本に戻るのが鉄則である。卒業生諸君は明日から母校を後に荒波の社会に船出するのであるが、基本に戻る力をも身に付けているはずである。あらゆる場面で現実問題に直面して解決の努力を払って貰いたい。(Y・M)

翌年九月末に、千里山の新しい町である
実験実習場が出来上がり、若
干の先生を天六に招いて全員
が千里山に移転した。
三十九年後の今、この時の
建屋の最後の二棟が壊され
外開いて中ではさだでない
が、外目には、基の新型クレ
ーンが立ち、着々と新実験場
とハitechリサーチセンタ
ーへ生れ変わっている。
関西大学の益の発展を願
って止みません。皆様、ほん
とに有難うございました。

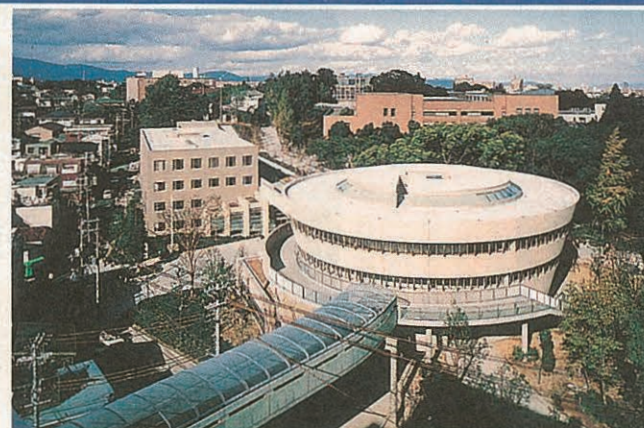


思い出の 関大ライフ

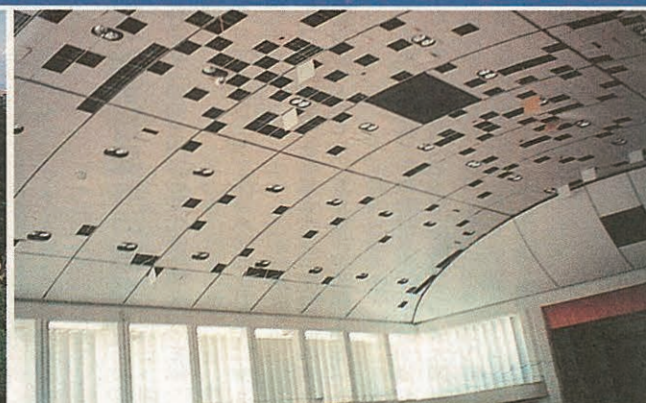
卒業生諸君が千里山のキャンパスで過ごした四年間、また、そして、卒業生諸君にも、ささげたい言葉が、生涯にわたって、生きた証として、いつまでも、心に刻まれるべき言葉が、ここに、あつた。わが国では、久々の連立内閣である細川内閣の誕生以降、政界の離合集散がくりかえされ、また、阪神大震災、地下鉄サリン事件といった戦後史に刻まれる大事件も発生した。本学においても、総合情報学部の開設、新関西大学会館の竣工など、大学の歴史、りかえつてほしい。

(天石)

こんなことがありました



新関西大学会館が竣工



大震災で被害を受けた第2体育館の天井



高槻キャンパスに総合情報学部



入学後のオリエンテーション



平成8年度 (1996)

- 5. 6 サッカー部、春季V (関西学生リーグ)
- 7. 19 アトランタ・オリンピック (~8. 4)
- 10. 1 理事長に大西昭男前学長を選出
ホームページの本格運用開始
- 10. 20 衆議院総選挙
- 10. 24 オリックス、巨人を破り日本一
- 10. 28 新関西大学会館が竣工。正門周辺に
新しいシンボルゾーンを形成
ハイテク・リサーチ・センター建設
工事着工
- 11. 5 クリントン米大統領再選
- 11. 7 第2次橋本龍太郎内閣 (自民) 成立
- 11. 22 法学部創立110周年記念講演会
- 12. 1 拳法部が全日本学生選手権で優勝
- 12. 8 速記部が全日本大会で18連覇を達成
- 2. 19 中国最高実力者の鄧小平氏死去

平成7年度 (1995)

- 4. 大震災被災学生に学費減免措置
- 4. 9 統一地方選挙で青島幸男 (東京)、横山ノック (大阪) 両知事が当選
- 5. 16 サリン事件などでオウム真理教教祖麻原彰晃 (本名・松本智津夫) 逮捕
- 5. 29 野球部、4年ぶり33回目の春季V (関西学生野球)
- 軟式野球部も優勝 (春季リーグ)
- 7. 23 第17回参議院選挙
- 9. 21 インフォメーションシステムのサービスを全学部で開始
- 10. 1 インターネットにホームページ開設 (英文)
- 10. 27 探検部がタクラマカン砂漠縦断成功
- 11. 13 復旦大学と学生交換協定を締結
- 1. 11 橋本龍太郎内閣 (連立) 成立
- 2. 19 アデレード大学 (豪) と学生交換協定を締結

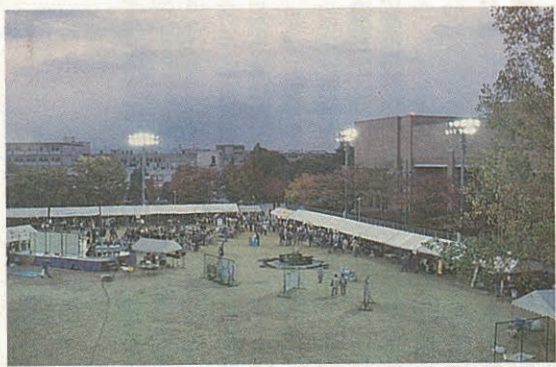


インフォメーションシステム、全学部で稼働



平成6年度 (1994)

- 4. 1 総合情報学部開設
第2部全学部、天六から千里山キャンパスへ移転
関西大学博物館開館
学生証を磁気カード化
- 4. 2 チューリッヒ大学 (スイス) と学術交流協定を締結
- 4. 28 文学部創立70周年で記念行事
- 4~9 羽田孜内閣 (連立) 成立
- 6. 27 松本サリン事件
- 6. 30 村山富市内閣 (連立) 成立
- 7. 8 金日成朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮) 主席死去
- 7. 27 国際シンポジウム「国際租税秩序の構築」開催 (法学研究所、28日まで)
- 8~9 交響楽団、オランダへ初の海外演奏ツアー
- 10. 1 第35代学長に石川 啓社会学部教授
- 10. 30 サッカー部、23年ぶり10回目の秋季V (関西学生リーグ)
- 1. 17 阪神・淡路大震災
- 3. 20 東京地下鉄サリン事件



第2部が千里山キャンパスで初めての学園祭

平成5年度 (1993)

- 6. 3 ハワイ大学と学生交換協定を締結
- 6. 9 皇太子「結婚の儀」
- 7. 18 総選挙で自民党が過半数を割る
- 8. 9 細川護国内閣 (連立) 成立
- 10. 26 第1回総合情報フォーラム始まる
- 11. 12 パーミンガム大学 (英) と学生交換協定を締結
- 最後の天六祭 (第2部、14日まで)
- 12. 21 総合情報学部の開設認可 (文部省)
- 3. 15 高槻キャンパス学舎棟等竣工
- 3. 25 第2学舎1号館、第2体育館、誠之館6号館 (有鄰館) 竣工



入学式



天六学舎

著を傾けて、まことに世に問はれたる主人の達に、読を勧

► 編集後記 ◀